和光の緑と湧き水だより会報 Verda２０６号

NPO 法人 和光･緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と協同で会報を発行します。
作成：高橋絹世　連絡先　048―462―9912
身 近 な 自 然 を 知って 守り 伝えよう http://wako-wakimizu.org/
ご一緒に自然に親しみ、ボランティア活動をしましょう　　随 時 会 員 募 集 中

2020年8月、9月の主な予定表　（2020年7月25日発行）

予定	全体会	新倉ふれあいの森	冨澤湧水・ 大坂ふれあいの森（地域の会に協力して）
８月	公園パートナーズとの打ち合わせ	１５日（第３土曜） 定期保全　９時半～	８日（第２土）　富沢湧水調査・保全　９時～ １２日（第３水）大坂ふれあいの森　９時～
９月	樹林公園「ヒロハアマナ保護区」の活動	１９日（第３土） 定期保全　９時半～	１２日（第２土）富沢湧水調査保全　９時～ １６日（第３水）大坂ふれあいの森　９時～

県営和光樹林公園におけるヒロハアマナ保護区のヒロハアマナ保護について

1999 年 5 月谷中のヒロハアマナ自生地から球根の掘り出し

ヒロハアマナは絶滅危惧種に指定されている春植物です。ふるさと和光にとって大切な植物です。牧野富太郎博士が発見し、*Tulipa latifolia* Makino と命名されております。博士は、たびたび和光市の谷中地区を訪れ、研究冊子にも発表されています。さらに、和光の詩人清水かつら氏の記録した特産植物の項に「広葉あまなー明治 41 年中、理科大学教授牧野富太郎氏により発見せられ、本村（新倉村）特産にして日本中何れの地にも産せずという」との記述があり、和光にとってかけがえのない植物です。

ヒロハアマナの自生地であった谷中地区が土地区画整理事業により、1999 年全面的に開発される際、市内数か所へ移植し、保護を試みた結果、当和光樹林公園内でのみ定着が見られ、現在良く生育し、春の開花時期には多くの市民が見学に訪れ、また、子供たちの教育にも資するものとなっています。当会会員達と長い月日をかけて保護してきた結果、生育分布を広げています。

このような状況の中、6 月 25 日に、大宮公園事務所の担当部の小林部長、細田様、公園パートナーズ石井所長清水副所長と会員 3 名とで視察会を行い、「ヒロハアマナ保護区」を案内した際に、突然移植が話題に出されました。

再度移植することは極めて好ましくなく、長い年月をかけて定着し、分布を広げている現在の環境からの移植は無理があることから、急遽、7月9日に当会の理事4名と赤松様、5名で要望書を大宮公園事務所総務管理担当部長　小林篤弘様に提出し、「ヒロハアマナ保護区」の維持継続活動をおねがいしました。保護区では草むらを残し、樹木を育て、昆虫などの生き物の棲める環境を維持することが重要であることを伝えました。小林様からは、移植はあくまでも提案で合って、現状が最も適した環境であれば、現在の場所で、パートナーズと協力しながら保全を継続することが了承されました。公園の石井署長からも7月14日に連絡があり、現在の場所で保全を進めることで了解を得、今後話し合いながら進めていく事としました。

ドングリの森づくりから20年「ドングリの森」の現状

会の活動拠点の一つである樹林公園では、ドングリの森づくり、ヒロハアマナ保護区の保全、松林育成、観察会「昆虫探し・森あそび」、委託事業「樹林公園フィールド学習環境整備事業」などを実施し現在に至っています。このような活動は、1999年にさかのぼり、浦和公園事務所主催の「樹林地検討委員会」のメンバーとして参加し、公園の樹林地の将来を話しあったことが始まりです。その当時園内の多目的広場は、樹木が密集し年間通して暗く人影もない状態でした。樹林公園全体は、草刈が頻繁で林床には植物がない状態でした。園内にはコナラやクヌギのドングリのなる木がないことから、自然の森が復活するような「ドングリの森づくり」が提案され、市民参加として湧き水の会が進めることになりました。

そこで会では、子供たちに参加してもらい、白子、新倉、理研の中など、市内のドングリを集め鉢植えにし、園内の一角に苗床を作り、夏には水やり当番を決め育成しました。子供たちの成長とともにドングリの木の成長を願う取り組みです。2002年には、苗木を5メートル間隔で植え育成しました。20年たち自然の森へと成長しました。

観察会「昆虫探し・森あそび」では、親子参加で生き物を探しながら森まで歩き、森の中を散策し、自然の森を感じとって、生物多様性の大切さを実感してもらう観察会です。